

# ホタルの光に癒されて

海老津駅から徒歩1分  
身近でホタルと会えるまち

ホタルは人里近くのきれいな川の木陰や草むらに生息するため、川の美しさと緑の豊かさを測るバロメーターでもあります。

自然豊かな岡垣町では、初夏になると町の数か所でホタルを鑑賞することができます。JR海老津駅を降りてすぐの場所も、町の中心部でありながらホタルが見られる貴重なスポット。この環境を守るため、住民による川の清掃やホタルの保護活動が行われています。



ほたるまつり  
吉木校区  
コミュニティ



温ひと人

幻想的な風景を  
一人でも多くの人に



インタビュー  
動画はこちら

小早川徳定さんがホタルを育て、守る活動を続けて三十余年になります。生まれも育ちも岡垣町の小早川さん。子どもの頃には町内各地でホタルを見ることができたといいます。

「当時は川面にホタルが群生していて、まるで『ほたる玉』のように川面を照らしていました」

大学から岡垣を離れていた小早川さんでしたが、その後帰郷。その際に岡垣でホタルの姿を二匹も見ることがなかったことに驚いたといいます。

「郷里の姿は変わっていませんが、確実に河川の水質は悪くなっていたのですね」

その後、ホタル養殖をする人に出会ったこと、新聞でホタル人工飼育の記事を見たことから、一人で人工飼育に取り組みました。



吉木小学校内にあるピオトープでホタルの幼虫を放流

「ホタルが住めるということは、人間も安心して住めるということ。すぐに心は決まりました。種ホタルを採取して孵化に挑みましたが、水温管理や水質などから失敗の連続でした」

まるで『ほたる玉』のように

川面を照らしていました



ホタルの里を守る会  
小早川 徳定さん

小早川さんは地元の小学校に応援をお願いし、一緒になって「ほたる飼育小屋」を建てるなどして、ようやく人工飼育に成功。その後、ホタルの里を守る会を創設し、地域が一体となってホタルを守るようになりました。

「農家の人も、農薬散布の量を減らしてくれたほか、幼虫のエサとなるカワニナの保護のために、多くの人が河川の清掃や保全にも取り組んでいただけました」

平成20年から始められた「ほたるまつり」では、乳垂川周辺を舞う500匹近いゲンジボタルを見ることが出来ます。

「まつり会場は高倉神社境内ですが、ぜひ一度、飼育発祥の地、吉木小学校校庭を会場にしてほたるまつりを開催してほしいです。そして、何よりホタルの乱舞する幻想的な風景を一人でも多くの人に見ていただきたいですね」

### ホタルの見ごろ

5月下旬～6月中旬ごろ  
午後8時～9時ごろ  
気温と湿度が高く、月明かりがない蒸し暑い夜に、よく飛び回るといわれています。



## マナーを守って ホタルを見よう!

- ホタルを持ち帰らない
- ホタルに懐中電灯などを当てない
- 大きな声で騒がない
- 川にごみやタバコを捨てない